

2014国際教養科 NEWS 7月(2)

国際教養科特別授業② 講演会(7/15)

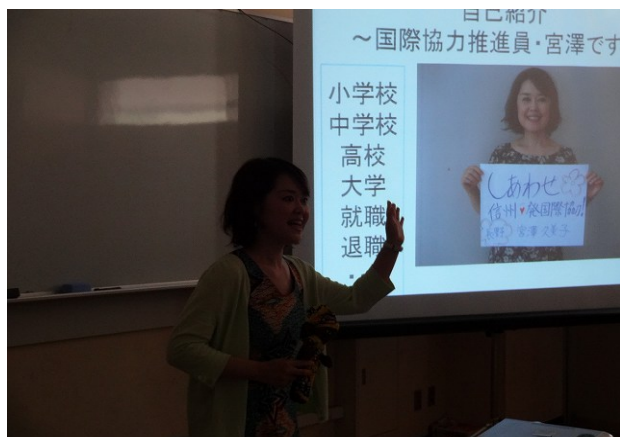
7/15(火)に、JICA国際協力推進員の宮澤久美子先生を講師として、国際教養科3年生(40名)を対象に、異文化理解の出前講座を行いました。

- ・JICA ボランティアについて
- ・ブルキナファソ国について(人々の暮らしの紹介)
- ・現地で活動や生活を通して感じたこと、出会い、体験談
- ・皆さんにお伝えしたいメッセージ(みんな同じ/大切なものはなんですか?)

等をテーマに、ご自身の体験に基づいた人生についてのメッセージを熱く語っていただきました。将来、国際機関やJICAに関わっていきたくて考えている生徒もいるので、特別授業は大変好評で、持参して下さった民族衣装を身にまったり、いつかブルキナファソに行きたいと言う生徒もいました。先週行われた外務省国際協力の講演会に引き続き、生徒の感想文から、国際理解だけでなく、人生訓を学んだ様子がうかがえました。

[講師] 宮澤久美子先生 下諏訪町生まれ
諏訪清陵高校、筑波大学卒業

2012年～現在 長野県国際協力推進員(JICA長野デスク)



・「セ・ラ・ナム・ジョーズ」(みんな同じ)という言葉聞いて、相手の宗教や考え方が理解できない自分たち(技術的には進んでいるはずの)の存在がとても小さく思えました。お話を聞いて、何度も自分の考えや世界の小ささを実感させられました。もっと広い世界を学び、知りたいと思いました。

・トマト缶の子供たちがたくさんいるというのは悲しく感じました。コーランを唱えて、お金をもらって、そのお金を学校に渡す繰り返しを思うと、自分がどれだけ恵まれているのかということを実感しました。1つの問題を解決しようとする、どんどん他の問題が出てくると言うことが、悪循環のように感じました。でもその問題を深く考えすぎではなく、楽しく解決しようとする現地の人の考えが素敵だと思いました。私もいつか海外青年協力隊に参加してみたいし、ブルキナファソにも行ってみたいです。



- ・自分で自分を認めることや「自分が羨ましいと思う人になればいい」という話から、人生のヒントを得ることができました。また、幸せな面だけでなく問題がある中でも楽しんで、最善を尽くすというのは、日常でも同じだと思いました。
- ・教育を十分受けられない現状があることは知っていたけれど、改めて聞くと、いつも自分の学校生活を大切にしないといけないと感じます。コーラン学校の子供たちは本当の教育を受けられず、本当に困っている子供たちも世界にはたくさんいるのだと思いました。「困難なことを楽しみながら向き合う」とても印象に残りました。自分も困難なことに直面した時に暗くならずポジティブに解決する方法を見つけたいです。ブルキナファソの人々の考え方、生き方がすごく素敵だと思いました。



- ・優しさや思いやりは本当に大切なのだと思った。子供の時からいつも大切な物を持っているけど、みんな同じという考え方がなければ大切な物をなくしてしまうのかなと思った。自分の弱点を見つけてから、それを直すために動いてみたり、それに負けないような強い物を見つけられたらいいなと思った。
- ・自分は気づいていないだけで、周りの人に支えられているのだということに気づかされました。「みんな同じ」という考え方を私も大切にしようと思いました。
- ・『キリスト教もイスラム教も仏教も全て同じ。祈り方が違うだけ』この考え方が世界に広がれば、もっと平和な世界が築けるのではないかと思った。
- ・自分がやりたいと思ったことはあきらめずにやり続けることが

大切。世界は繋がっているって本当だなと思いました。

- ・「知らないことは存在しないことと一緒に」という言葉にドキッとしました。「まず知ってほしい」と言うことがよく分かりました。
- ・セルフエスティーム、ありのままの自分を受け入れる。自分が自分の親友になる。
- ・私にも自分の殻を破る勇気が必要だと感じた。
- ・「その時の自分にできる最善のことをすれば必ず道は開ける」という言葉を心にとめて頑張りたい。